

会員数(53.5 現在)

蓮子地区 111名

葉山地区 211名

大船地区 75名

合計 397名

吟道月報

社団法人 日本詩吟学院 弘風会認可

神奈川 碩心会

53・5月

第70号

発行

根岸 晃岳

編集

中村 愛風

秋元 梁風



私の好きな詩



小峰 桜岳 (堀内支部)



良く聞く言葉ですが、人間の為にな
ぎてゐるのだ。……

私流で申しますと、働くと言う一本の
柱(即ち親妻子の爲)そして働ながら
自分にあつた良い趣味を求める柱が和合
して、人と言う字が構成されたものと信
じます。

好きな詩とは、人それぞれ違い、内容
を好み詩と、朗詠しやすい詩と二種類
に分けられるのではないでしようか。私
は、良寛作の無心を選びます。

花は無心にして蝶を招く
蝶は無心にして花を尋ね

花開く時蝶来り
蝶来る時花開く

すべて無心、自然を好み、我もただ無
心にあらんかな、平和な国づくりに小こ
わしい詩ではないでしようか。

昔の小学校の本にあつた鬼と亀の話は
誰でも知つてゐることだが、鬼は自己の
能力と過信の誤りによつて、亀との競争
を問題にしなかつた。一方亀は最後まで
あきらめずに、ねばつて自己のペースで
勝利を獲得した。と言う、会員の皆々こ
一人一人が、生来恵まれた健康で、忠実
な練習の積み重ねから、和と美の調和が

とれた、秀れた朗詠を、囂の如くねばり、いつまでも続けることを望みます。

常任理事会開催

とき、五月十四日(日)午後一時より

ところ、なごり会館

主な議題、(1)、役員改選について

(2)、名簿作成について

(3)、会則の一部改正の件

理事会に提案する案件について検討

とき、五月二十七日(土)午後七時より

ところ、逗子桜山会館

理事会開催報告

とき、五月二十七日(土)午後七時より

ところ、逗子桜山会館

次の議案につき審議決定

(1) 頑心会本部役員(常任理事)

名誉会長	松井岳洋	広報部長	中村愛風
会長	根岸晃岳	広報副部長	秋元淑風
相談役	加藤秀岳	会計部長	千葉香風
〃	三井要岳	逗子地区長	千葉劍風
総務部長	竹石颯風	葉山地区長	沼田光岳
企画	加藤冽風	大船地区長	下條亮岳
許証	中村幸風	会計監査	蒲谷蒼岳
敬務	小峰枝岳	〃	井沢潮岳

(2) 会員名簿作成について

会員の増減、依位の訂正等、必要性を確認、作成を決定、出来上り次第配布とする。六月中には配布出来る予定。

(3) 会則の一部改正について

会則に左の事項を加へ、訂正とする。
(イ) 新支部開設の認定は、常任理事会の認可を得る

(ロ) 各部に必要と認められた時は、副部長をおく

(ハ) 入会は、会長の承認を得るものとす。

(ニ) 本会の趣旨に反し、秩序をみだす者は退会とする。

尚、会則は予算の関係上、支部長、理事以上に配布する。

五月七日県本部総会にて

役員改選あり新役員紹介

本 部 長	常盤玄湘 (吟星)	留任
副 本 部 長	新田玄悠 (横南)	留任
〃	松本玄篤 (玄篤)	〃
〃	林 玄菱 (横船)	〃
横須賀市一地区長	大森真玄 (横南)	新任
〃 〃 二地区長	加藤秀玄 (碩心)	新任
横浜地区長	芥沢豊玄 (玄篤)	改任
湘南 〃	橋川幸玄 (幸玄)	新任
川崎 〃	有藤至玄 (富士野)	新任

事務 司 長	岸見玄 (碩心)	留任
許証担当部長	岡島鴻玄 (青嵐)	〃
敬務 部 長	毛利心玄 (横南)	新任
経 理	覚張秀玄 (東芝)	留任
庶務 〃	鹿島久玄 (横船)	改任
企画 〃	立平敬玄 (湘南)	留任
青少年 〃	佐藤城玄 (湘南)	〃
審 査 委 員 長	譜留玄城 (湘南)	〃
審査副委員長	石渡玄道 (横南)	〃
〃	草野玄菘 (竹星)	〃
監 事	長谷川玄声 (玄声)	〃
〃	持島玄照 (税関)	〃

会議員の異動

新入会員

吟南支部	木野本明	横須賀市小天部ノの24の17	電〇四六八—36—六八〇四
〃	鷹鎌正三	横須賀市二葉町3の78	電〇四六八—42—〇六七六

新入会員 つづき

堀内支部 (B班)	西山かほる	東京都太田区石川町1-2-1 電03-3777-4729
シ	佐々木さかえ	横浜南區入ッ川一の三五八 電045-774-6980

退会会員

37 堀内支部 A班 関口八重

温習会での

許証授与について

今回許証をうけられる方で、奥伝以上の方は、個々に授与されることになっておりますので、当日出陣されない方でも、必ず出席して下さい。

(許証部長 中村幸風)

広報部長を

おひきこうけして

昨日の雨で明月院のあいさいが、一、二輪ひらきはじめたとか、皆杯如何お過していらつしやいますか。今回、突然に広報部長なるものを命ぜられました。びつくり致しましたが、副部長の秋元氏の協力を前提のもとに、おひきこうけすることになりました。

名編集長の加藤淵風先生のおとを、ひきうける事は重荷ですが、頭の体操のつもりで、やらせていただくことにいたします。

広報部の主なる仕事といえますと、月報の発行ですが、皆杯の月報ですので、皆杯の声を、より多くお寄せ下されば幸いです。

皆杯の御協力をお願いします。

広報部長 中村愛風)